

大学院等高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ」

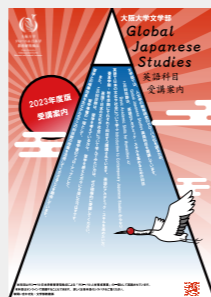
プログラム紹介

大学院等高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ」（英語名Global Japanese Studies。以下、GJSプログラム）は、日本研究の最先端の成果を学術的に学ぶとともに、そのコンテンツを英語で発信するためのスキルを高めることを意図して2017年に開講した教育プログラムです。現在、人文・社会科学系部局の協力のもと、グローバル日本学教育研究拠点により企画・運営されており、文系・理系を問わず、日本研究の最先端を学び世界に発信したい大学院生を対象としています。以下の3つの到達目標に対応する形で、科目が構成されています。

プログラムの到達目標（修了時に身に付く能力）

- ①複数の分野の日本研究の最新の成果を理解している。
- ②海外の日本研究の最新の動向を踏まえて議論することができる。
- ③日本研究の成果を英語で発信するための基礎的なスキルを身に付けている。

①の目標に対応して提供されているのは、日本の日本研究の最先端の成果を日本語で講じる講義科目で、②③の目標に対応して提供されているのは、英語圏の日本研究の最新の成果を学ぶ講義科目と、自分の研究成果を英語で発信する力を高めるための演習科目です。



受講生からのメッセージ

福島萌木

人文学研究科人文学専攻博士前期課程2年

私の研究内容は、シルクロードのイメージから近現代日本の姿を問うものであり、海外の日本研究を踏まえつつ専門の枠組みを超えて日本研究について学ぶ必要があったので、GJSプログラムを履修しました。日本に関する議論は想像していた以上に面白く、議論のたびに新たな問題意識が芽生えました。日本研究に関する講義もまた、私の問題意識に応えるものでした。講義では受講生の問題意識に応じて文献を紹介していただいたので、日本研究に対する理解を深めることができました。このプログラムを通じて、興味・関心の裾野を広げることができたので、日本研究について包括的に学びたい人に強くおすすめします。

Mariia SIMONCHUK

人文学研究科日本学専攻博士前期課程1年

日本学の院生として、研究の専門知識はもちろん、自身の専門外の幅広い日本研究の知識を身につけたいと思い、GJSの履修を決めました。日本語の授業のほか、英語で開講されている多くの授業を通して、国際的なアカデミックな場で活用できる英語能力やライティングスキルを向上させられることも魅力的ですが、日本国外で行われている「日本研究」の視点に触れることがとても貴重だと思います。本プログラムの授業を受け、日本国内外の「日本研究」のより多面的で深い理解を得て、自身の研究へのヒントを多く得ることができました。

授業担当教員からのメッセージ



Nicholas LAMBRECHT

人文学研究科助教／
グローバル日本学教育研究拠点（グローバル拠点形成部門）兼任教員

担当科目 Introduction to Contemporary Japanese Studies 1: “Interacting with Japanese Culture”
Introduction to Contemporary Japanese Studies 2: “The Japanese Short Story”
Issues in Contemporary Japanese Studies 1: “‘Global Japan’ in Literature and Film”
Issues in Contemporary Japanese Studies 2: “The Practice of Translating Japanese Media”
Basic Academic Skills for Humanities 1 & 2: “Reading for Discussion”
Advanced Academic Skills for Humanities 1: “Writing Research Papers”
Advanced Academic Skills for Humanities 2: “Presenting Research”

コロナの感染状況が落ち着き、学生全員が対面で豊中キャンパスの授業に参加するようになった今年度は、英語で行われるグローバル・ジャパン・スタディーズ科目の授業は、教室に椅子が足りなくなるぐらい賑やかに行うことができました。英語圏の「日本」に関わる最新の人文系研究成果を共に読み議論する場として、または学生自身の博士論文研究・修士論文研究の新しい展開を英語で話し合い進展させる場として、GJSプログラムの授業が大阪大学の人文学教育と研究に欠かせない存在になってきたことは明らかです。今後もグローバル日本学教育研究拠点のサポートと支援のもとにGJSプログラムの英語による科目を提供し続け、グローバル人材と次世代の研究者の育成に貢献したいと思います。



Yulia BURENINA

グローバル日本学教育研究拠点特任講師

担当科目 Introduction to Contemporary Japanese Studies 1: “Topics in Japanese Religions”
日本の文化と思想講義：「近代日本と仏教」

昨年度と同様に今年度も、前期は日本の宗教に関する様々なトピックを取り上げる英語による講義、後期は近代日本と仏教についての日本語による講義を担当しました。前期の講義では、新宗教研究やスピリチュアリティ研究への関心が高まっていることを実感しました。後期の講義では、近代における仏教と国家の関係、とりわけ戦争との関わりについて、受講生の関心がきわめて高いことがわかりました。近年の国際情勢や日本社会の現状が無関係ではないのでしょうか。GJSプログラムは、まさにこうしたアクチュアルな問題関心に対して、前提知識と議論の場を提供し、国内外の学術研究の動向を踏まえた上で、日本についてグローバルな視点で考えることを目標としています。